

残りの者 シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(122号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



摂理とすぐれた知性とはわたしのもの。わたしは分別であって、わたしには力がある。
箴言8/14

信仰:神の摂理-お取りはからい

- 日毎の寒暖の差が10℃もある異常な天候に、待ちに待った桜前線もあつという間に走り去ってしまいました。体調管理も難しい春でしたが、皆さんにはお変わりございませんか？
- 多くの来客があった4月でしたが、その合間を縫って日和山と見事な桜で周辺全部が囲まれている登米市にある平筒沼を訪ねその美しさを愛でることが出来ました。
- 私たちの群「石巻祈りの家」も小さいながら、11年目の一歩を踏み出しました。「**キリストの恵みと知識における成長**」(IIペテロ3/18)の目標聖句の下で、キリストは自分にとって何か(恵み)、そしてキリストは私たちに何を望まれているか(正しい知識)をさらに誠実に求めて行きたいと願っています。
- この群の開所以来、水曜日の祈り会では、「ガラテヤ人への手紙」・「これがキリスト教です」・「十戒」・「キリスト教の精髓」・「ベター・トゥギャザー」・「教会・イエスの共同体」・「使徒信条」「だから、こう祈りなさい(主の祈り)」を学びつづけて来ました。その学びの中で、こんな価値のない者が神に愛された者とされるという計り知れない神の大きな愛と恵みの深さを教えられてきました。
- 現在、学んでいる「ハイデルベルク信仰問答」の問い27「**神の摂理とは何か**」という学びの中で、1/21にメンターの森谷正志師のメッセージ「もう一つの信仰:神の摂理」で、「**摂理**」が「**神のお取りはからい**」(創世記50/20)であるという説明にそれが心の中にスッと落ち、アドナイ・イルエのことだと目を開かれた経験を思い起こして、互いに頷き合いました。
- 知識というものは、そのことばの意味や解説を覚えることではなく、その概念がストーンと心に落ち、「そういうことか」と納得でき、それを他人に生きた形で伝えることの出来るものだと思います。
- 初代のユダヤ人たちは、イエスの多くの奇蹟を見、権威ある教えを聞いていても、「十字架にかかって死んだ(呪われた)者」が自分たちが求め続けてきたメシア(救い主)であるはずがないという思いに縛られていました。
- しかし、「神のお取りはからい」による聖霊(助け主)の働きによって目からうるこが落ちたときに、神の愛とイエスの十字架の意味が腑に落ちたのです。
- そして、それは彼らの生き方と価値観を変えました。彼らの生き方の変化と語ることばの一致に、周りの人は何が彼らに起こったのかと求め始めました。
- そこにはいつも神の「お取りはからい」がありました。福音書の最後に書かれているように「エレサレムから世の果て」(日本)まで働き、そしてこんな小さな自己中心の私にも働きました。そして、同じ「神の摂理」で召された兄弟と共に、励まし合い、神の恵みと愛を伝えるべくこの「石巻」に召されているのだと考えています。
- このことに襟を正しながら、この地の人にこの「神のお取りはからい」を知っていただくために、一日一日を大切に、インマヌエルの主と共に歩みたいと思います。続けてこの小さい群を覚えて祈り支えて下さいますように。

先月の多くの恵みから

- ① 4/8-9に多くの支援団体からの献金とご配慮があり宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会で奉仕された方々が休養と交わりが出来るようにと追分温泉で過ごす恵みのプレゼントをいただきました。32名の牧師や信徒が親しい交わりと休養の感謝な時を過ごしました。
- ② 2018年度も、継続して仙台バプテスト神学校長の森谷正志師に群のメンターをしていただけることになりました。

- ③ 4/16に私たちが支援を続けた仮設住宅で過ごし、復興住宅に移られた93歳の阿部 等さんが阿部の元同僚のN.A.さん(等さんの親類の方と判明)と一緒に教会を訪問して下さいました。また、教会への献金もいただきました。
- ④ 今回の大震災で継続して支援を下された福音伝道教団本庄教会牧師吉田 孝師ご夫妻が4/18の祈禱会に参加して下さいました。学びと祈りを共にし、昼食を一緒にして主にある交わりの時を持つことができました。先生は一般社団法人をたちあげ地域の方々への食品の支援をされており、被災地の漁師から海産物を定期的に購入するために来られています。
- ⑤ 4/19に石巻中央キリスト教会での4月の石巻ミニストリーネットワーク集会の中で、ICCCに奉仕に来られていた呂 榮生牧師に、石巻の各教会および3.11追悼記念会での台湾の花蓮大地震被害者への募金140,000円を託すことが出来ました。
- ⑥ 4/14に、地元紙「石巻日々新聞」のコラム「潮音」に第1回分が掲載されました。月1回で9月まで投稿機会が与えられました。良き証しが出来るようにお祈り下さい。
- ⑦ 4/1のイースター礼拝は、例年通り山城町教会で合同礼拝をさせていただき、聖餐式と祝会での楽しい交わりも一緒に持つことが出来ました。
- ⑧ 4月も、みなさんからの献金/献品/手紙/電話/訪問等で群を励まして頂き、働きが支えられて心から感謝します。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 求道中のガンと闘っている今野かつ子さん、手術後の千葉信一兄の奥様/藤井 斉兄の回復のために。② 地域より求道者が起こされるように。③ 渡米中のDean師ご夫妻の働きのために。

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

5月 凸凹八十路のふたり

間違いのくらしごめんと夫に詫言
「おつりがあるよ」と静かな返事
ありがとうと口付く言にひょうひょうと
「死ぬ時でいいよ」とネットに向かう
「あと何年、短かしのち、いらいらは
損をするよ」と すました顔が



阿部 八重子

昭和9年と11年生まれの性格正反對のふたり。よくまあ、連れ添って来たものと感慨しきり。引きこもり含む孫三人の面倒見ながらエッチラ、オッチラの生活です。

3月末から4月末までに来訪された先生・兄弟/「祈りの家」の地区教会活動との関わり



4/9-10 追分温泉での宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会準備委員会の慰労会 多くの団体のサポートで1泊の慰労会に集った同労者 4/10の風間先生のメッセージで早天祈祷会



4/18吉田師ご夫妻が祈りに参加 4/15化学の野田先生ご夫妻の来訪 4/16阿部等さんと元同僚の訪問 楽しい手芸での可愛い作品 明るい会話も弾む楽しい手芸の会



4/13平筒沼に桜を愛でに 4/1山城町教会でのイースター合同礼拝での祝会と礼拝の様子 4/19 IMNで呂師に花蓮への支援金 4/20前川愛結実ちゃんが来訪

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」=主の山に備え在りの意

信仰の歩みの中で

支え合う関係に

博多ニューライフ教会 教会員 元菊枝

2011年3月東日本大震災が起きたとき、私は一日中テレビから流れる恐ろしい映像に目を離すことも、それが現実であると受け止めることもできずにいたことを覚えています。

教会でもすぐに支援物資を集めることはしましたが、実際に遠く離れた東北まで足を踏み入れるまでには至りませんでした。何かしなければ、とモヤモヤしていた私に、マタイ25章40節“はっきり言っておく。私の兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、私にしてくれたことなのである。”というみことばが与えられ、私の背中を押し、教会のメンバー4人でクラッシュジャパンを通して仙台に入ったのは翌年8月でした。

どんなことをするのかも分からず、仙台の宿舎に到着した途端、スタッフの方に明日から現地への移動は自分でするよう言われ、「この中で運転免許証を持っている人」と聞かれました。手を上げたのはなんと私一人! 「人手が足りないので宜しく」、と大きな古いワゴン車のカギと小さなナビを渡され、“知らない道を大きなワゴン車で運転なんて出来ない”という心と裏腹に私の手はカギを握っていました、そのとき参加したメンバーは9名。うち半数は海外からのボランティアも含む初対面の方々でした。道中もみんなに祈ってもらい、使命感に燃えていたことを思い出します。

それから続けて教会のメンバーと毎年仙台に行く中で3年目に阿部さんと出会い、石巻での働きが始まりました。

私は、福岡でブリザーブドフラワー製作の仕事をしているので、阿部さんがお世話をしている仮設住宅のお茶っこクラブで教室を開くことになりました。参加された皆さんはまだ寂しい心がいっぱいのようにでしたが、久しぶりにお花をみて、少し心が和んだのかとても喜んでくれました。そこでディーン先生と出会

い、ブリザーブドフラワー教室が希望の家に繋がっていきました。

その後2015年12月、私は早期のガンが2ヵ所見つかかり、阿部さんにそのことを伝えました。祈りの家でお祈りくださった、という報告のあとすぐに阿部八重子さんから励ましの手紙と手作りのぶどうのブローチが届きました。手術前の私にとって、それはとても大きな励めと励ましになりました。

東北の方々を励ましたいと常に思っていた私でしたが、お互いに祈り、支えあう関係になっていることがわかりました。そして「早く元気になって、皆さんとお花の教室をしよう」という思いが支えになりました。

2度目の手術から5ヶ月したころには、祈りの家と希望の家でお花の教室を再び開くことができました。私は毎年プレゼント用にクリスマスツリーを作るのですが、東北でもクリスマスツリーの教室を開き、皆さんとイエス様の誕生を一緒にお祝いしたいという思いが与えられ計画を立てました。

しかし、材料の調達など思った以上に費用がかかり断念しそうになりましたが、思わぬところで仙台の業者と繋がり実現することができました。これも主の導きと確信しています。

1回目から思った以上の申し込みがあり、たくさんの方に参加して頂きました。今でも皆さんの家にイエス様をお祝いするツリーが飾られていると想像しただけでわくわくしてきます。

2回目となる昨年12月も参加希望者が多いとのことでレッスンの回数を増やし、一緒にツリーを作り、その後のティータイムでは話が尽きることがありませんでした。いつも私たちは、伝道の灯が東北の地で広がるように、という思いで祈り、準備をしています。

熊本地震、九州北部豪雨など身近なところでも災害が起き、ここ福岡では、次第に東北の状況を知る人たちが少なくなってきたのが現状です。その中でも私たちは東北への使命を忘れることなく持ち続け、これからもたくさんの方たちと繋がっていけるよう、願っています。

最後に、このような働きができるのは、毎回私たちをあたたく迎え準備して下さる阿部夫妻、ディーン夫妻のサポートあつてのことです。心から感謝します。



左端が元 菊枝さん